

博士課程リーディングプログラム フォーラム2015



＜＜スタッフセミナー＞＞

教育研究の国際連携： アフリカでの調査・演習実施事例の紹介



長尾 眞文

(国連大学サステイナビリティ高等研究所)



» セッション要旨

グローバル化する社会で活躍する専門的人材を育成するには、国際的な教育研究を体験する機会の提供が不可欠である。

このスタッフセミナーでは、アフリカの大学との協力による修士・博士課程院生の現地調査・演習を内容とする二つのプログラムを事例として紹介し、そのようなプログラムの企画、実施、結果の評価について参加者間で意見交換を図ることとする。

大学/部局	プログラム	アフリカ側提携先	活動内容	参加院生
東大 サステナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院 プログラム	グローバルフィールド 演習：アフリカ (GFE・Africa)	南アフリカ：ケープタウン大学 ナイジェリア：イバダン大学 ケニア：ナイロビ大学	提携先院生との合同グループ・フィールド研究の実施 (現地滞在：10日間)	東大院生 H24： 6名 H25： 14名 (2グループ) H26： 8名
国連大学 サステナビリティ 高等研究所	グローバルリーダー シップ・トレーニング プログラム	国連大学の連携協 定相手の8大学及 び派遣院生の所属 大学の提携先	院生の個別現地 フィールド調査支 援 修士： 3ヶ月 博士： 6ヶ月	国内大学院生(公 募) H24： 6名 H25： 9名 H26： 10名

» アフリカの大学との教育研究連携推進の意義

1. 連携ギャップの存在

大学間学術交流協定締結数のサンプル・チェック

	アフリカ	アジア	北米
東大	5	131	56
京大	5	47	23
慶大	2	106	93

出所：各大学ウェブサイト(2015年10月16日；但し、京大の数字は全学協定のみ)

2. アフリカに対する世界的関心の増大

- ・地球レベルの持続可能な開発の課題地域(飢餓・貧困・疫病・砂漠化・都市化)
- ・近年の経済社会開発の加速化 (10億人規模の人口/5-6%の成長率)

3. アフリカ諸国の日本に対する関心の拡大



» 話の背景：国連大学のアフリカ高等教育プロジェクト：ESDA修士プログラム
 （アフリカの持続可能な開発のためのリーダー養成プログラム）

-2008年～13年：日本政府の支援で修士プログラム開発

-2014年：アフリカの8大学で3プログラム共同開設

プログラム	大学
持続可能な都市開発 (SUD)	ナイロビ大学
	ケニヤッタ大学
アフリカの農村地域の持続可能な総合開発 (SIRDA)	イバダン大学
	ガーナ大学
	クワメ・エンクルマ科学技術大学
	開発研究大学
鉱業・鉱物資源 (MMR)	ザンビア大学
	ケープタウン大学



- 日本側協力大学：国連大学、東大、名古屋大、横国大、九大

事例1 グローバル・フィールド演習：アフリカ

＜東大サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム＞

・コース：アフリカの持続可能な開発に関するフィールド演習（H25）

- ナイジェリア演習（6名）：自然保護と開発
- 南アフリカ演習（8名）：アフリカの都市問題

・目的：① アフリカの開発の現場で持続可能な開発の理解を深める
② 現地提携大学との共同学習を通してリーダーシップ経験を積む

・期間：現地滞在10日間

・宿泊：提携大学推奨施設（ゲストハウス等）

・プログラム：
- 提携大学教員による講義
- フィールド調査の実施
- 提携大学院生とのグループ作業
- 現地コミュニティ/大学での報告
- グループ報告書の作成・帰国報告会



» 事例1 演習のスナップショット



» 事例1: 企画、実施、結果の評価に関する課題と対応

- 基本的課題: ① 安全の確保
- ② 学生の自主性の尊重
- ③ 演習効果の発現

〈企画段階〉

1. 現地大学との協定締結(学術交流/学生交換) ⇒ 演習の共同実施
2. 事前学習の実施 = 現地大学の教員招聘・フィールド研究方法の学習
3. 学生主導による演習の準備(テーマ設定、現地大学院生との連絡)

〈実施段階〉

4. 現地大学教員との二人三脚
5. 博士課程学生のリーダーシップ
6. フォーマル・インフォーマルな振り返りを多用

〈結果の評価〉

7. 現地演習終了時のフィールド調査報告(対現地大学、調査地域団体)
 8. 帰国後、グループ報告書作成・提出、報告会の開催
- [現在、本年3月に実施したGFE Nairobiの評価を院生主導で実施中]

事例2 国連大学サステナビリティ高等研究所

アフリカにおける グローバル・リーダーシップ・トレーニングプログラム

- ❖ 文部科学省の支援を受け**2013年より実施**
- ❖ アフリカの教育研究機関において、**調査活動の実施**や**インターンシップ**に参加するための助成金交付制度
- ❖ 年間**約10名**の大学院生(修士・博士)を対象に、**2~6ヶ月間**にかけて現地へ派遣
- ❖ UNUパートナー校
 - ① クワメエンクルマ科学技術大学 (ガーナ)
 - ② 開発大学 (ガーナ)
 - ③ ガーナ大学 (ガーナ)
 - ④ 国連大学自然資源研究所(ガーナ)
 - ⑤ イバダン大学 (ナイジェリア)
 - ⑥ ケニヤッタ大学 (ケニア)
 - ⑦ ナイロビ大学 (ケニア)
 - ⑧ ザンビア大学 (ザンビア)
 - ⑨ ケープタウン大学 (南アフリカ)

※ 日本の所属大学が有する協定に基づき、上記の大学以外への派遣も可能



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

❖ これまでに派遣した学生数（2015年度においては派遣中もしくは派遣予定）

- 2013年度 – 6名（ケニア2, ガーナ1, 南ア1, ザンビア1, セネガル1）
- 2014年度 – 9名（ケニア4, ガーナ1, 南ア2, ザンビア1, DRG1）
- 2015年度 – 10名（ケニア1, ガーナ2, 南ア1, ザンビア3, セネガル1, マラウイ1, ウガンダ1）

❖ 学生の研究分野（2013-2015）

開発、社会科学、教育、環境、建築工学
獣医学、霊長類学、コミュニケーション

❖ 修了生の卒業後の進路（2013-2014）

外務省、環境省、NPO、研究員、
民間企業（開発コンサルタント、通信、IT、建設）

❖ 戦略的目標

- グローバル・レベル
 - アフリカの教育研究機関との学術協力における関係強化
- ナショナル・レベル
 - 文科省やJAANとの協力関係を通じたTICADの実施への貢献
- アカデミック・レベル
 - 日本の教育研究機関との教育活動における協力関係の強化
 - アフリカの課題に取り組む日本の学生の能力強化



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

» 事例2： 企画、実施、結果の評価に関する課題と対応

- 基本的課題：① 安全の確保
- ② 研究調査環境の準備
- ③ 研究成果の発現

〈企画段階〉

1. 派遣学生の「限定的公募」による選考
2. 国連大学と現地側受入大学との間の合意レターの交換(含受入費用)
3. 事前オリエンテーションの実施

〈実施段階〉

4. 派遣学生の現地事情に応じて個別対応
5. 派遣学生による月例進捗状況報告書の提出
6. 受入大学の担当教員と派遣学生の出身大学の指導教員との連携

〈結果の評価〉

7. 帰国後、報告書作成・提出、派遣学生合同報告会の開催
8. 受入教員および出身大学教員による研究活動評価
9. 派遣学生による自己評価



» 経験共有・意見交換テーマの提案

1. アフリカの大学との連携は安全と教育研究成果を担保できるか？
2. アフリカ側提携先の便益と費用をどう考えるか？
3. 学生の自主性と大学側の管理責任の間のバランスをどう取るか？
4. 短期人材育成プログラムの効果をどう評価するか？
5. 教育研究の国際連携に大学事務担当者のプロフェッショナル化は必要か？